

「縄文」世界遺産推薦へ



発行所 秋田魁新報社
〒010-8601
秋田市山王臨海町1番1号
©秋田魁新報社 2019年

号外

購読申し込み

0120-13-1231

電子版
www.sakigake.jp

モバイル
m.sakigake.jp



詳しくは「秋田魁新報」朝刊、「秋田魁新報」電子版「さきがけMOBILE」をご覧ください。

大湯環状列石 伊勢堂岱遺跡 21年登録目指す

国の文化審議会は30日、021年登録を目指す推薦(秋田市)を含む「北海道・国連教育科学文化機関(ユネスコ)候補に、大湯環状列石(鹿北東北の縄文遺跡群)」を選定した。伊勢堂岱遺跡(北)

縄文遺跡群は本県と北海道、青森、岩手の4道県にある17遺跡で構成。4道県は狩猟や採集などを基盤とした先史時代の文化を知る物証として世界的な価値があると訴え、09年にユネスコの暫定リスト入り。13年から国内推薦の獲得を目指してきた。これまで6年連続で見送られ、今回が7度目の挑戦だ。

政府は来年2月までに推薦する見通し。ユネスコの諮問機関・国際記念物遺跡会議(イコモス)の現地調査を経て、順調に進めば21年夏のユネスコ世界遺産委員会で登録の可否が審議される。



「北海道・北東北の縄文遺跡群」に含まれる鹿角市の大湯環状列石①と北秋田市の伊勢堂岱遺跡